

拠出金名:国際復興開発銀行拠出金

分担金・義務的拠出金の有無		有(所管官庁)		無	
当該機関等に対する分担金を含めた平成19年度の拠出総額				9,613,498千円	
国際機関等名	国際復興開発銀行 (英文名称・略称) International Bank for Reconstruction and Development (IBRD)				
種別	国連(事務局)	国連(基金・計画)	国連専門機関	その他	
所管官庁担当局課名	財務省国際局開発機関課				
最近3年間の我が国支払額及びODA率					
単位	邦貨 (千円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レート	ODA率(%)
平成19年度	9,613,498	—	—	円建て	100
平成18年度	11,536,866	—	—	円建て	100
平成17年度	12,252,451	—	—	円建て	100
当該拠出金の目的・用途等	開発途上国における社会経済の発展のための技術支援や人材育成の実施。				
拠出上位5ヶ国・地域・機関等				国際機関等の財政 (2008年6月末決算)	
	国名	金額 (百万米ドル)	率(%)	当該年度の収入	6,863百万米ドル
1位	イギリス	1,075	12.3	当該年度の支出	5,372百万米ドル
2位	米国	760	8.7	次年度への繰越	1,491百万米ドル
3位	イタリア	749	8.6	会計検査機関名	
4位	フランス	736	8.4	Deloitte & Touche LLP	
5位	EC	685	7.8		
上記の率及び順位は2008世銀年度(2007年7月～2008年6月末)のもの。日本は第10位、シェア4.6%。(出典:World Bank Annual Report 2008)					
当該機関等に対する我が国としての評価 (当該機関等の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)					
<p>国際復興開発銀行(IBRD)は、途上国に対して準商業条件で貸付を行うことを主たる業務としており、単一機関としては世界最大の開発資金の貸付機関となっている。(なお、IBRDは、国際開発協会(IDA)とスタッフ等を共有しており、一般に両者をあわせて「世界銀行」と呼ぶことが多い。)</p> <p>世界銀行は、融資に加え、その専門性・知見を活かしつつ途上国政府に対する政策アドバイスを行っており、現地レベルでの援助協調においても主導的な役割を担っている場合が多く、その役割はますます重要となっている。我が国としては、ODA実施に際し、世銀の有する政策対話、援助調整等の機能を積極的に活用するとともに、世銀の施策に我が国のODA政策、開発の理念を積極的に反映させてきている。なお、我が国は、IBRDに対する出資を反映して7.9%の投票権を有している。</p> <p>本拠出金では、世銀融資の借入国に対する技術支援、途上国における人材育成、日本と世銀との協力関係の強化、途上国の貧困層・社会的弱者に対する直接的支援やその担い手となるNGO等の能力強化、等を行っており、これらの支援を通じ、途上国における能力構築が進み、世銀融資がより効果的に実施されるようになっている。</p>					
<p>合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価</p> <p>途上国支援に関する環境の変化を踏まえ、1998年以降「ストラテジック・コンパクト」と呼ばれる一連の改革が実施された。その結果、意思決定権限の現地事務所への委譲といった措置等を通じて、より途上国のオーナーシップに則った、途上国の個別事情に即した効果的な支援が実施されるようになっている。また、適切かつ効率的な支援が行われるよう、独立した評価部局や汚職対策部局が設けられている。さらに近年では、「結果重視」の考え方の下、世銀の援助効果をより的確に把握する取組みが強化されている。我が国はこのような一連の取組みを評価している。</p>					
邦人職員数 うち幹部以上(注)	62人 うち 4人	当該機関の職員数及び 邦人職員が職員全体にしめる率(注)		3,335人 1.9%	
邦人職員が占めている幹部ポスト					
ポストの名称		職員氏名		備考	
欧州・中央アジア地域担当副総裁 資金調達局長 スーダン、エチオピア担当局長 スリランカ担当局長		勝茂夫 西尾昭彦 大橋堅一 石井菜穂子		財務省出身	
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画					
<p>我が国は、日本人の幹部ポストでの登用を図るよう、世銀総裁の来日時等、機会あるごとに申し入れている。2003年8月に、勝茂夫欧州・中央アジア地域業務担当局長が、欧州・中央アジア担当副総裁に就任。</p> <p>なお、世銀グループにおける日本人職員増加のための活動としては、リクルートメント・ミッション(個別面接、各大学等の訪問、採用セミナー等を実施)の日本への派遣、将来世銀等の国際機関の職員になるための指針を示す「キャリア・カウンセリング」の実施(随時)、民間企業主催のキャリアフォーラムへの参加を通じた世銀の活動、採用状況の紹介等がある。</p>					

(注)職員数については、2008年6月末現在